

フロムサウス
from

SOUTH

2018年
vol. 33 5月25日発行
長崎県立長崎南高校関東同窓会
会報



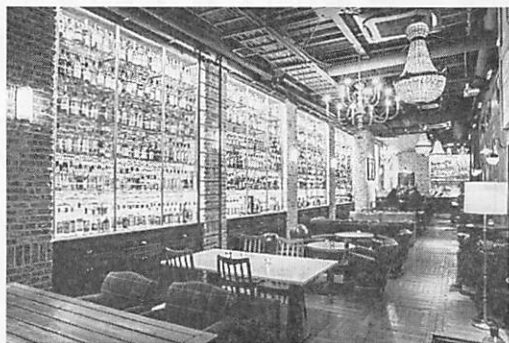
▲イラスト 小玉修作（7回生）

長崎南高校関東同窓会総会

第28回 2018・7・7

ウイスキー、好いとるやろ？

ちいっとばかり、しゃべろうで♪



今年の七夕は、大人の空間で 昔といまを語り合う日 世代を超えた出会いがあなたの “セレンディピティ”となりますように

さわやかな5月の風、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

長崎南高校関東同窓会の案内です。日程は、7月7日。七夕の日に、世代を超えた再会の同窓会となります。今回はTOKYO Whisky Library(トーキョーウィスキーライブラリー)です。表参道駅からほど近い南青山サンタキアラ教会に併設する大人の集まる場所にふさわしい空間。心地よい音楽と壁一面に配置されたウィスキーボトルを背景に、セレンディピティを体感ください。

「セレンディピティ」とは、＜素敵な偶然＞に出会ったり、＜予想外のもの＞を発見したりすること。そういう会にしていければと思っています。今年は「5」のつく回生が幹事で25回生を中心に準備を進めています。年齢に関係なくお楽しみいただけるよう、アイデアを出しあっています。

しっとりした大人のムードの中、世代を超えた交流ができる場。キラキラしたあの時を大人モードで語れる空間がお迎えいたします。

幹事一同、みなさんのセレンディピティになれるよう、しっかり準備してまいります。

2018年の7月7日は、記憶に残る七夕に… 多数のご参加をお待ちしております。

第28回長崎南高校関東同窓会総会実行委員一同

日時 2018年7月7日(土) 14時～16時(受付開始13時40分)
会場 TOKYO Whisky Library(トーキョーウィスキーライブラリー)
〒107-0062 東京都港区南青山5-5-24
南青山サンタキアラ教会2階
電話 03-6434-1163
会費 (年会費込)
普通会員 10,000円
プラチナ会員 8,000円(1回生～6回生)
学生会員 5,000円
アクセス
東京メトロ 銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」
B3出口より徒歩2分



勝弘の小屋

このコーナーは、関東同窓会・江勝弘会長が、日々の思いをつづります。年に一度の、お・た・の・し・み

日本史と西郷どん、そして長崎

長崎南高校関東同窓会会長 江勝弘

11 回生

高校時代の授業の選択で、今でも悔やんでいることがある。それは3年生の時に日本史の授業を選択しなかったことだ。まずそのせいで男子クラスになってしまった。それまでの2年間は男女クラスだったので、男子クラスの味気なさは正直こたえた。社会人になってからも、日本史をよく知らないことは常識がないことと同義であり、コンプレックスとなった。

昨年、書店で『いつきに学び直す日本史』（東洋経済新報社）という書籍を見つけた。表紙には元外務省の佐藤優氏の大げさな推薦文が踊っている。曰く「外務省時代肌身離さず読んだ。1冊で200冊分の教養が得られる」などと素晴らしい宣伝となっている。冒頭に書いたようなコンプレックスを抱いている身としてはひとたまりもない。思わず購入してしまった。時間はかかったが今年に入って分厚い上

下巻をようやく読み終えた。これでやっと普通の人の常識に追いついたのかと思うと、ほっとすると同時に知らない（忘れてしまった？）ことが多いことも驚いた。さて今年の大河ドラマは、ご存じのとおり「西郷どん」である。幕末の活躍を毎回楽しみにしている。「西郷どん」を見ながら、幕末から明治維新にかけての偉人が薩摩・長州・土佐からは多数輩出しているのに、何故長崎からは出なかったのか？疑問に感じた。早速『いつきに学び直す日本史』の長崎の記述を読み直したり、ネットで調べたりしたが、肝心のところがよく分からない。手柄を全部隣の肥前藩に取られたのか？長崎人はお調子者で政治には向いていないのか？などと迷想していた。たまたま4月28日のハタ揚げ大会で前会長の小岩先輩と会話する機会があったの



で、私の疑問をぶつけてみた。

小岩さん「それは簡単。長崎には武士がいなかったからね。むしろ長崎の商人は幕府体制のおかげで得られる利益を守っていたと思うよ。」

と嬉しそうに教えてくださった。

たしかに一理ある。小岩さんは日本史にも長崎の歴史にも詳しいので、このようなことは常識らしい。どうやら参考書を一冊読んだくらいでは、歴史の常識を構築するのは難しいようだ。まだまだ学習することは多いと考えたら少し楽しくなってきた。定年後の趣味として歴史研究しようかと思うこの頃である。

汽車は汽車たい！電車じゃなかよ！

会長代行 小岩寿樹

10 回生

「どうして長崎の人は、JRの列車を汽車って言うの？」

次女の素朴な質問に答えられない私。確かに、JR山手線は電車です。

長崎本線は何十年前にも前に電化されましたので、「かもめ」も電車のはずですが、長崎では「汽車」と呼びます。電化前がディゼル車で、その前が蒸気機関車ですから、「汽車」とよんでもおかしくはなかったのだでしょうが、長崎人にとっては「電車」といえば、やはり「喫茶屋」から出ている、あのチンチン電車で、「かもめ」は汽車かな？

母の一周忌法要で、今年の四月に長崎に

帰郷しましたが、その時「赤迫」行の電車に乗り、中吊り広告を見ました。

なんと、今年の8月1日から、13もの電停名が変わるそうです。

そういえば、昔は「浦上車庫前」行きは「西町」行きでした。「桜町」も「小川町」でしたよね。新地バスターミナルの前には「入江町」という電停がありました。

今回は「賑橋」が「めがね橋」に、「市民病院前」が「メデイカルセンター」になるそうです。

「正覚寺下」が「崇福寺」になったら、電車の行先名も変わるのでしよう。それならバス停の名前も変わるのでしようか。高校時代に通学していた時。目になっていた停留所の名前が変わるのも、ちょっと寂しいですね。

でも、一番ガッカリしたのは、「築町」が「新地中華街」に変わってしまうことです。最近、外壁が落ちてニュースになった「メルカ築町」は、昔は魚の匂いのする築町市場でした。

（あの場所こそ「築町」とに、なして十八銀行の前に電停のあった？）

私の素朴な疑問で、しかも、今のあの場所の住所表示は「銅座町」ですが、「なしで「築町」って言うの？」

それは、「出島表門橋」まで巻き込んだ、長崎の歴史の中の大きな出来事に由来しているからなのです。

その経緯を聴きたい人は、ぜひ、七月七日の関東同窓会に来てください。たつぷりと蘊蓄を話したいと思います。

みなで、「ああ懐かしかねー」という話をしましょう。昔の「織姫」と「彦星」に会えるかもしれません。そして、18歳の時の長崎の街と、そこで輝いていたあなたに会ってください。

パワー炸裂

24 回生



楽しさと充実感

竹内暢夫

2017年7月1日(土)。休日だがいつもより早く目が覚めた。今AM5:30くらい。「雨が降らなければいいな」と思いつつ、スマホでチェック。何とか持ちそう。今日は南高の同窓会の日。2月から準備を始め、幹事にかこつけてたびたびプチ同窓会を重ねてきたが、今日でひと区切り。「幹事の人々、もう起きたかな」と考えながら、早く目が覚めてしまった小心者の自分が可笑しくなった。

準備の日々をふり返ってみよう。

(4月 会場決定)

東京で屈指のクラブ『CLUB DIANA』に決定。日比谷駅構内でJR有楽町駅からも近く、参加者ができるだけ迷わない会場を選んだ。圧巻の広さに「ここしかない!」とビビッとした。

(5/6月 余興の準備)

「男女1人ずつの司会にしようか」「男性がボケで、女性がツッコミ!」「余興は何にする?」「ビンゴゲーム?」「景品揃え

るの大変じゃ?」など、意見も活発になってきた

(7月1日 同窓会当日)

AM7:30。目を覚ました幹事仲間からのLINEやメール、電話など、連絡が活発になってきた。準備は万端。あとは司会の久保くんのキャラクター次第。スベっても盛り上げよう(笑)

AM11:00。会場近くのファミマのイトインに集合。食事を摂る人、コーヒーを飲む人、それぞれにリラックスモード。事前準備に加われず当日に合流した幹事も、みんな前のめりの打ち合わせ。いいねえ、ワクワクが止まらない。

「幹事も同窓生、みんなで楽しもう!」を合言葉に一致団結。試合前の円陣だ(笑)

PM1:00。受付開始。

同窓会は南高で過ごした仲間との再会の場。卒業したての人も、年数の経つ人も、普段忙しい人も、悩みを抱えている人も、この日は昔に戻り、希望を思い出す日。余興は手作りのフォークダンス。後夜祭で見上げた夜空を、みなさん思い出していただけましたよね。

PM4:00。一次会終了↓二次会へ。

二次会場は通りを挟んだ塚田農場。幹事も一息ついて楽しんだ。

「初めて来た! 楽しかった!」「来年はいつ? まだ決まってるない?」「明日休みよね? もう一軒行こう!」とそれぞれ。参加者の方々が明るい表情で帰途につく様子に、とても心が和んだ。

卒業して30年。再会した旧友と、楽しく準備できたことが嬉しかった。現職をリタイアした後に、みんなで新会社ができそうな気がしたくらいです。

幹事の人々、お疲れさまでした。楽しかったね(笑)

また、なんかやろうね。
《これから幹事の順番が来る皆様へ!》
断言します。幹事になると、参加者に負けないくらい楽しめます! その後の交流も深まります! 同窓会を機に、これまでに以上に人生を楽しめることでしょう。

ステキな誕生日でした

正木(松村)美奈子

楽しかった。楽しすぎた。昨年の同窓会。

関東同窓会は、卒業してすぐの大学生の時に1回行ったきりで、ずーっと行けてなかった。その時に誘ってくれた友達が、また今回も声をかけてくれた。あの時から、もう30年以上経つ。いつもアリガトウ!! あなたにはみんなが、とっても感謝しているよ。

久しぶりすぎて、「みんな私のこと分かるのかな?」とドキドキしたけど、懐かしい顔、声、長崎弁:みんなあんまり変わっていない、南高の雰囲気・空気、目の前の同級生達と同時に頭の中に高校時代のたくさんの情景が次々と浮かんでくる。私の記憶

は高校時代を飛び越して保育園の頃にまで及び、気分はウキウキと弾み、楽しく話げできた。

同窓会当日は受付を担当した。同じ24回生の男子とともに、お揃いのバニーの耳をつ



け、張りきって皆様のお出迎えに励んだ。お世話になった先生方も来てくれた。元気なお姿がとっても嬉しかった。握手をしてもらった時は、いろんな気持ちが混じって涙が出てきた。

ところで、目の前に座ってお向かいで共に受付をしている男子は高校時代、理系女子数名で「文系のかつこよか男子ば見に行こうで」と理系の教室から文系の教室まで、こっそりお顔を拝見しに行つた君ではないのか?? 急に思い出した。目の前のお顔と高校時代のお顔がピッタリ重なり、「あー!」と叫んで立ち上がりそうになった。

受付も終わり、たくさんの皆様がいるホールに行き、しばらくすると、Happy Birthdayの大音量が流れ出した。「あー私も誕生日なんだよなあ」とほんやり思っていると、「誕生日の方は上がって!」という司会の声!! みんながお祝いしてくれた。大きなケーキを切り分けてもらい、本当に幸せいっぱい気持ちでバクバクとたいらげた。とっても美味しかった。美味しすぎた。絶対に忘れられない。

二次会、三次会後も帰りたくなかった。みんなも楽しそうだった。

この日、再会するまでの長い間、みんなもイロイロなことがあったんだろうな:でも元氣そうで良かった。またみんなに会いたい。本当に思い出深い一日。いじで楽しかったー。

新幹線に乗ってきました!

肥塚(橋本)智子

長崎で生まれ育った時間よりも関西での

生活が長くなりました。関西にいたると同級生と会うことも少なくなっていたのですが、5年くらい前にフェイスブックで同級生と繋がってからは、関西在住の同級生と集まったり同窓会にも参加するようになりました。

関西には同級生のお店があり、長崎や関東方面からお仕事などで来られた同級生が集います。学生時代は話したことがない人たちとも、最近になって会うようになりました。

東京での同窓会は遠いため迷っていました。が、なかなか会えない親友と会いたいこともあり、思い切って参加することにしました。

いざ東京へ：私はひどい方向音痴なので、新幹線に乗っている間中ドキドキしていました。有楽町駅で待ち合わせしていた友人たちの顔を見てホッとしましたが、な



かなか緊張感は抜けずにいました。

会場に入るとミラーボールがキラキラ（さすが幹事バブル世代）、そして長崎弁が飛び交っていました。懐かしい先生や同級生と長崎弁で話していると、いつの間にか都会にビビっていたことも忘れていました。

幹事の〇〇君のコスプレ、会場の雰囲気盛り上げるバーベキュー、校歌、後夜祭の思い出のフォークダンス（振付にジェネレーションギャップはありましたが：笑）と、幹事の皆様が何度も集まって企画してくれた同窓会は素晴らしいかったです。

思いがけない人に会えたり、「初めまして」の感じの人とも何次会まで行ったのかわからないほど楽しい時間を過ごすことができました。南高での思い出は、私の中では制服のグレーの色のような青春時代だと思っていました。が、楽しかったこともほろ苦い思い出もいろいろあったなあと振り返ることができました。

世代の違う方とも一緒にさせていただき、賑やかな楽しい同窓会でした。改めて南高の卒業生で良かったと思いました。

先日私も50歳になり、だんだん体力の衰えを感じるお年頃になりましたが、また皆様とお会いできる日を楽しみに、頑張りたいと思います。皆様もお元気で！

戻ってきました！

大久保です

大久保 将

「高校の時好きだったけど、結局その思いも告げられず卒業。それっきり会うことは

なかった。関東にいたことはわかっているの：。今日会えるのかしら：」

そう、ここは日比谷。明治維新以降、日本初の西洋式ホテルである帝国ホテル、鹿鳴館、東京倶楽部などが建設され、近代化を象徴する街となった。明治時代には上流階級の社交場として発展。そして、明治維新からちょうど150年。日比谷公園近くのとある社交場（Club）に、遠く長崎に思いを馳せながら、コンクリートジャングル（？）の関東で懸命に生きている長崎南同窓生1回生から44回生が集まった。（なんとその差43歳！）

バブルを謳歌した人、弾けた後でその恩恵も受けることなく、不況の荒波から社会人がスタートした人、そんないろんな世代が、今宵一緒に、音楽のリズムに体を委ね、グラスを傾け、懐かしい日々を思い出そう。

そう、今日は年に一度の関東同窓会。同期も関西など遠方から駆けつけ、否が応でもボルテージは上がる。“Are you ready? Let's dance!”

* * * * *

図々しくたびたびTom SOUTHに登場している24回生の大久保です。長崎から5年ぶりに東京へ戻ってきて、幹事長（？）の大役を仰せつかり、集まったのは男ばかり：。「なぜだ、俺が幹事長だからか!」月1で集まるうちに女性も来てくれ、多少安堵。

会場のコンセプトは「非日常」。演出は私の趣味（？）で「コスプレ&大人の魅惑」。耳でだけはなくて、全員バニーガールにしようと思っていたが、女子から反対があり断念！やはりフォークダンスは定番だった！（花火の画像も見ただけでしたか？）



今回の一押しの景品は「先祖代々供養を受けられる賞（東長寺様提供）」だったが、わりと若い方が受け取られて、この賞を使うまで先は長い：。

* * * * *

そして、夜の帳が下り、日比谷公園はしんと静まり返り、それと裏腹に近くの銀座には灯りがともし始める：。

「泣くのに弱いぜ そろそろ帰ろう男」

そんなのいやよ ラストまで女

踊っていたいの女

東京！ナイトクラブ 月男男女

（皆さんは、この最後のBGMにはお気づきでしたでしょうか・・・？）

* * * * *

最後に、前田さん、小川さん、江さん、野村さん、松田さん、山本さんの諸先輩方、ご多忙中、私どもの幹事会にお越しくださり、ご助言を賜り、誠にありがとうございました！

単身赴任を終えて

9回生 梶原 茂（乗富）

東京赴任中は、たいへんお世話になりました。とりわけ遊々会のみなさまには、あちこち一緒させていただき、奥多摩などの綺麗な山とてんぶら、芋煮などの美味しい食事を楽しむことができました。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、九州（福岡）へ戻って1か月ほどになりますが、毎朝、久留米まで車通勤しています。夜は私の方が1時間ほど早く帰宅しますので、毎日晚御飯を作ってカミサンの帰りを待っております。朝のりんご＋ニンジンジュースも私が作りますので、基本的に、朝も夜も私Ⅱ作る人、カミサンⅡ食べるだけの人の構図です。午後4時を過ぎると、今日は何を作ろうかな、などと考えるようになりました（笑）

ところで連休は、天気が良さそうですね。ハタあげ大会にもたくさんの方がみえることと思います。残念ながら参加できませんが、地元福岡タワーの横で開催される「九州地ビール祭り」へ行く予定です。

連休後半は、東京の孫を見に行きます。神奈川の娘のアパートに泊まり、カミサンと娘は布団に、私は寝袋を持参する予定です。それも楽しいか…

九州へ戻っても、相変わらず中国関連の仕事をしています。時間的に余裕がありますので、皆様が九州へおこしのさいは、会社を休んで御一緒させていただきます。

（2018年4月吉日）

還暦、そして帰郷

14回生 黒岩 ヒトミ

今年、とうとう還暦を迎えることになった。人生が一巡したのだ。

短大卒業後、就職で東京に出てきて39年が過ぎたことになる。就職した会社で定年を迎えるとは思わなかった。この39年間で長かったのか、短かったのか。

二十代は、不安と期待の中、必死に働き、ダンスに夢中になった。三十代は、海外へ旅行することを覚えた。四十代にかけて日本芸能全般、特に歌舞伎にはまった。毎月歌舞伎座に通いつめた。その合間に寄席・文楽・狂言と忙しい日々を過ごすことになった。五十代は、同窓会幹事回生の時に再会した多くの14回生と旧交を温めた。定期的に催されるハイキング、花見、バーベキュー、忘年会と飲み会、本当に楽しい時を過ごした。

振り返ってみれば、いろいろ辛く苦しいこともあったはずだが、思い出すのは楽しい出来事と、友人達と過ごした多くの時間だ。関東同窓会を通じて出会った先輩、東京で新たに知り合った友人、長崎にいる友人、多くの友人達との親交が、私のこれまでの人生を心豊かにしてくれたと思う。出会った多くの方々には心よりの感謝を伝えたい。

さて、話は変わるが、定年退職を機に、長崎に帰郷することにした。高齢の母と暮らすためだ。足が弱った母は、あの坂道と階段が辛いと言う。まだ元気に暮らしているのに傍にいて、多少手助けできれば私も安心できる。

東京は、多くの文化的情報に溢れ、いつでも何かにふれられるのが魅力的だが、歳か、あり過ぎることに疲れてきた。長崎は何もないと言う友人もいるが、それはそれで楽しみがあるだろう。いざ住み始めるといういろいろあるのだろうが、その時はその時だ。

学業終了と同時に長崎を出た私は、あまり長崎を知らない。一番遊び回るときになかったのだから仕方ない。帰郷後は、ゆつくりと長崎をさるきたいと思う。

だがまずは、今年長崎で行われる、高校・短大の「還暦同窓会」を楽しみたいと思う。

和・華・蘭は楽しく深い

17回生 南部 順子（秋月）

船橋に転居して8年。関東在住の長崎出身の方との出会いをきっかけに、さまざまな「長崎」に関わるイベントに参加しています。

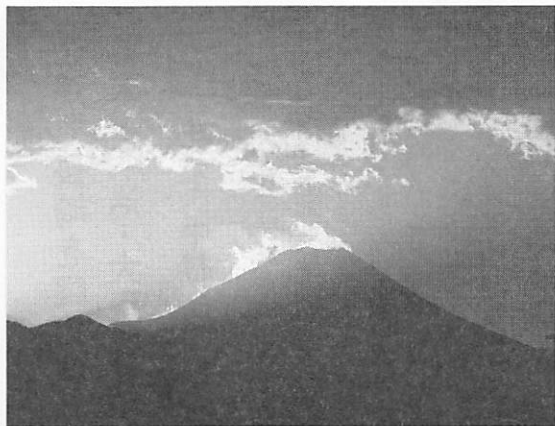
毎月の関東くち塾に、4月に行われる大田区多摩川でのハタあげ大会、長崎伝習所在京塾・和華蘭研究塾、県人会等々…

長崎人が集まれば自然と長崎弁が飛び交い、ほっとする場所と化します。

昨年初めて参加した、長崎伝習所在京塾・和華蘭研究塾では、長崎文化の象徴となっている「和・華・蘭」それぞれにスポットを当てて、長崎から講師をお招きし、歴史の背景や人物、現在に至る流れなどさまざまなお話を聞くことができました。それを元に【和】【華】【蘭】ごとに、これまでにないガイドブックを作ろうと、塾生皆でアイデアを出しあい、成果物を作り上げました。



塾生の中には、もちろん南高の大先輩たちもいらして、こちらにいるからこそその出



夕暮れに富士を望む (撮影：筆者)

会いで、いろんな場面での語らいができることに感謝しています。
諸先輩方、これからもよろしく願います。

松戸よいとこ住めば都

21回生 横井慎一

千葉県松戸市に住んで22年。関東で人気の街は横浜。

昭和の末期、就職で関東に来て、大田区多摩川、東急目蒲線矢口渡駅近くの会社寮、二人部屋から関東の生活が始まった。

会社の新人イベントが茨城県日立市であり、その移動バスの隣に座った同僚から、「関東はもう、都内は住めないよ。地価も高騰して一戸建てなんて無理」。長崎では英彦山の中腹に住んでいたため、そうと知っていたら田舎が良かったなと一瞬思った。

が、まあ自分が決めた道。それから真つ直ぐ4K（キツイ）と言われたシステムエンジニア業に猛進した。

会社で家内と出会い、茨城県土浦市の家内の実家から、東京を結んでどこまで近づけるかと、常磐線沿線の分譲マンションを模索した。天王台、我孫子、北柏、柏、南柏、松戸。選んだのは千葉大園芸学部近く、徳川15代将軍慶喜の弟、昭武が明治まで住んでいた戸定邸の近くの高台。

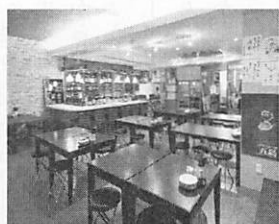
窓から、隣の部屋が見えるのは嫌だ。長崎人のこだわり。眺望、隣の家がなくても見えるのは屋根。住んで気づいたが、夕暮れは富士山が浮かび上がる。東京タワーも見え、スカイツリーも建設され、夏場は江戸川、荒川、隅田川、各所での花火大会が見える。交通も格段に進化し、通勤には始発も魅力だったが、つくばエクスプレス、上野東京ライン開通で混雑も緩和され、この6月には外環自動車道松戸ICが開通する。ゴルフへの移動も楽しみだ。

長崎の実家は、父が20年ほど前に他界し、実家の周囲、親戚はほとんどの男性が先立ち、70〜80代のおばあちゃんばかりとなった。弟も北九州に所帯を持ち、母独りである。母の姉妹、友達が多いが、英彦山の中腹に訪問できる体力が皆なくなった。電話するたび、話し相手が減ったためか、キレがなくなり、いよいよ下界（マチ）への引越を3年前に決断した。同じ境遇の方も多いと思うが、古い家、荷物整理も大変だった。今は長崎の中心街で元気にしている。さて松戸の我が家は、息子二人も成人、まだ同居だが、次のスタイルの模索が始まる。そもそもマンションって何年もの？まさか軍艦島みたいになっていかないよね。77戸8割方が同世代で高齢化が進む。時間は余裕が出てきているが、20年後は？

あなたにくつろぎの時間を提供します

長崎人のオアシス **ike亭**
 店長 山口辰彦 (海星35回生)
 東京都港区赤坂 3-10-14
 AKASAKA FOUR DEER BLDG 501 Tel. 03-3582-5288

思考停止しがちである。そのうち、片方が先立ち、高齢者一人暮らしが増え、賃貸や空き家が増え、管理費、修繕積立金も集まりづらくなる。マンションは管理組合員で集めた修繕積立金で、建物の老朽化に対処するが、年次を重ねると費用もかさみ、コミュニティの劣化もより心配材料である。景気が回復しはじめ、共働き世帯も増え、23区、山手線圏内への都心回帰が始まっている。一生に一度レジデンス、タワマン、ヒルズもイイねと一瞬憧れる。1か月くらいなら折角の東京、住んでみたい。家内の両親も80前後となり、今度の車検でクルマ生活も終了しようとしている。長崎の母を見ていると、高齢者は街中で生活した方が元気に暮らせる。荒川沖駅近くか、松戸駅近くか。コンパクトな長崎市内での引越と、県を跨る引越はコミュニティを作り直す必要もある。関東は交通機関が高度に発達しているだけに広い。元気な高



東京赤坂に長崎県「五島列島」が登場♪
 地下とは思えない広々とした空間で
 リーズナブルに楽しく飲める居酒屋。
 直接取り寄せの五島食材はもちろん
 定番居酒屋メニューも豊富に
 地元の話で盛り上がり間違いなし！！



あちやうちん **360°**
 107-0052
 東京都港区赤坂 3-12-3-B1
 TEL 03-5545-5705

年齢でいてもらいたい願いは共通だが、心配は募る。年金制度、住宅、墓地等、50〜100年レンジのテーマは自身が元気なうちは良いが、その次世代、親とのコミュニティを考えると見通すのは難しい。その分、変化を受け入れ、その都度、柔軟に考えることが大切と感じる。思考停止にならないようしたい。

この記事は、関東同窓会の方には、普通に共感をいただけると思う。一方、若いうちは都会に憧れたが、長崎をずっと住まいにしている方には、違う感じ方になるのかもしれない。それでも、その時々のご縁を大切に、前向き、一生懸命生き、楽しめること、これさえできれば、どこでも住めば都、貴重な人生を積み上げていくことができると感じている。カナダ人の奥様と出会ったり、ドイツ駐在の同級生に比べれば大したことない（笑）

江戸で長崎を眺める 幕末・明治・大正の写真

9回生 中村尚子(馬渡)

この春、「写真発祥地の原風景／長崎」が恵比寿の東京都写真美術館で開催されました(3月6日～5月6日)。同館と長崎歴史文化博物館、長崎大学附属図書館に所蔵されている写真、142点を2期に分けて展示。上野彦馬、内田九一らの手によって切り取られた長崎の港や町並みが一挙によみがえりました。

踊町ごとのおくんちの傘鉾、川沿いにぎっしり並んだ家々、港に係留された外国船にそびえるマスト……長崎の町はたいそう賑やかだったんだなあ、と立ち止まり1葉1葉をじっくり眺めました。

それから「人」。名のある外国人、日本人はもちろん、丸山の女性や「子ども歌舞伎」なんていうのもありました。

私にとって印象的だったのは、南山手居留地あたりの風景写真。現在の長崎地方気象台から南公民館、旧浪の平小学校あたりの道は、150年前の面影を残しているのですね。



最近では、南山手の「マリア園」がホテルに買い取られるというニュースがありました(4月には説明会もあったそうです)。自分が育った町でもあり、大事にしたい風景だと思いました。

なお、この展覧会は、5月22日～6月24日には、長崎歴史文化博物館で開催されています。機会があったらぜひ。また長崎大学附属図書館所蔵の古写真は、「長崎大学電子化コレクション」と検索して、インターネットで閲覧することができます。

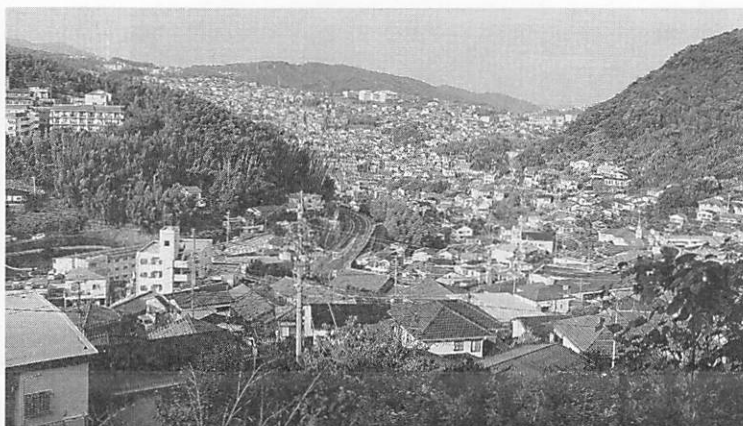
事務局だより

関東同窓会の会報も、今回で第33号の発行ができました。今年も回生を気を配りながら記事をお願いしたところ、みなさん気持ちよく書いてくださり、写真の出る幕が少なくなっていました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

◎総会

昨年の第27回総会は、日比谷「クラブ・ダイアナ」で開催されました。ミラーボールとウサギ(パニー)の耳が記憶に残っています。フォークダンスも楽しかったですね。

今年は第28回を迎えます。25回生が主体となって、会場は南青山の「東京ウイスキーライブラリー」を予定しています。大人の雰囲気漂っているようです。普段、気楽に入れそうな感じではないので、興味津々、友達の友達まで誘ってぜひ参加をお願いいたします。



長崎の家々(撮影:横井慎一)

◎決算

決算書は、昨年の総会で承認をいただいた平成28年度のものでした。総会参加時に納めていただいた年会費と振込による年会費と一昨年の総会剰余金で成り立っています。また総会の剰余金を23回生の皆さんより繰り入れていただきました。ありがとうございました。

これからも、ぜひ会費納入のご協力をよろしくお願い致します。

◎あとがき

たまたまでしょうけど、7回生(66歳、67歳)で定年から子会社、協力会社での勤めも終わって、郷里(長崎、自宅がある所)

へ戻る人が数名いました。つまり東京から去ることになったのです。東京へ一極集中から地方へ分散の傾向になっているのでしょうか? 県・市も前はUターンから今はIターンを強く薦めているようです。皆さんもそれぞれに考える時代になってきたのかも知れませんね。

平成28年度決算

平成29年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越	693,835	会報印刷代	152,776
会費	572,210	会報発送料	141,368
広告収入	0	運送費	360
預金利息	0	編集情報費	5,076
雑収入	10,000	イベント開催費	70,703
		他地区参加費	42,000
第25回総会	28,000	総会補助費	0
		会議費	0
販売協力金	36,600	事務費	0
		通信費	24,000
		旅費交通費	120,000
		ホームページ維持費	36,000
		振込手数料等	0
		予備費	10,000
		翌年度繰越	738,362
	1,340,645		1,340,645

フロムサウス 通巻三三三号

二〇一八年五月二十五日発行

編集/発行人 長崎南高校関東同窓会

江 勝 弘

発行所 長崎南高校同窓会

〒183-0056

東京都府中市寿町2-3-11-701

前田幸司方

URL <http://members3.comhome.ne.jp/fromsouth/index.html>